

中部プラスチックリサイクル協同組合 事業報告書

事業名 令和5年 新春講演会 賀詞交歓会

担当・出席者 三河分科会（分科会長：藤井副理事長）・新春講演会31名 賀詞交歓会29名

開催日時・場所 令和5年1月8日（日）・名鉄グランドホテル

新春講演会 GX時代におけるサーキュラーエコノミー（循環経済）について
経済産業省 資源循環経済課 課長補佐（総括） 吉川 泰弘様

内容
担当者所見

昨年に引き続き新春講演会を開催させて頂きました。参加人数は昨年を上回る31名にご参加頂きました。GXグリーントランスフォーメーション時代の幕開けにマッチしたご講演を企画させて頂きました。

講師に経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課 吉川様をお招きし、CEサーキュラーエコノミーに関する国内外の動向や、プラスチック資源循環促進法、また、今後の日本における資源循環の方向性について熱く語って頂きました。驚いたのは、日本の一般廃棄物のリサイクル処理状況は他国と比較するとかなり遅れを取っており26番目に位置している。逆にサーマルリサイクルつまりエネルギーリカバリー依存度が世界トップである事に衝撃を受けました。

グリーントランスフォーメーションの必要性が叫ばれる中、資源循環型社会形成・サーキュラーエコノミーの実現に向けて、課題は多く、官・民・企業あらゆるステークホルダーの連携が必要不可欠であり、経済産業省も「制度・ルール、コスト・投資、消費者・普及啓発・、ビジネスモデル・技術」の観点から動静脈産業の連携・調和を急ピッチで目指している意向が強く伺えました。

プラスチック資源循環・サーキュラーエコノミーの実現は待ったなしの状態であり、我々プラスチックリサイクラーの経験・技術も強く求められている事も実感致しました。静脈産業と言われるプラスチックリサイクル業界が知恵と技術と行動力で動脈産業と連携し、これからの日本の資源循環経済をけん引していくんだと実感して頂いた組合員様も多かったと思う晴らしい講演になりました。

その後、賀詞交歓会は29名が参加し感染対策を織り込み粛々と開催させて頂きました。

